【授業評価アンケート】

今年度の取り組みの一つとして、授業評価アンケートの改善に取り組んでいます。他県でも、授業改善に有効なものとして報告されています。

授業アンケートは、これまで先生の通信簿的な側面が少なからずあり、結果に一喜一憂して終わる場合もありました。

今回、ルーブリックとまではいきませんが、教員と生徒がともにめざす具体的な姿を共有し、そのために授業がどうあるべきか考える一助となるようなものにならないかと試行錯誤しているところです。右の授業アンケートは、従来のものです。先生方のより有効な授業改善のツールとなるようこれまで担当者会で何度も議論し、教科会や教科主任会でも議題にしてもらっているところです。

なお、教育センターの新任教職員研修用『教育センター研修における授業づくりの研修ハンドブック』をみると、授業力は次の4つで構成されるとなっています。

① 情熱・使命感
② 構想力
③ 生徒理解力
④ 指導力・統率力

教員の授業力を客観的に判断することは難しいですが、自己診断だけでなく、授業評価アンケート等からメタ認知をしていくことが授業改善には必要と思われます。

松江東高校　授業アンケート

日頃の授業は、教員と生徒の皆さんが協同して進めているものです。このアンケートは「よりよい授業づくり」のために、みなさんが日頃の授業への取り組みを振り返るとともに、各先生方が授業力の向上を目指すための材料とするものです。生徒の皆さんは、真剣な態度で以下のアンケートに答えてください。

授業者［　　］　科目名［　　］　年　R 氏名

次の各質問について、あてはまるものに○印をつけて回答してください。
5＝そう思う　4＝どちらかと言うとそう思う
2＝どちらかと言うとそう思わない　1＝そう思わない（注意：3はありません）
※教科の特性上質問にどう答えていいかわからない場合は「0」に○をしてください。

生徒自身に関する内容

質問番号	質問項目	評価 5	4	2	1	0
①	私は授業に意欲的・積極的に取り組んでいる。					
②	私は宿題や提出課題にきちんと取り組んでいる。					
③	私は日頃から予習や復習などの学習に取り組んでいる。					
④	私は定期試験や実技テスト、小テスト、ICTなどに全力で取り組んでいる。					
⑤	（教科独自）					

授業に関する内容

質問番号	質問項目	評価 5	4	2	1	0
①	先生の板書・ICTは分かりやすく整理されている。					
②	授業で使ったプリントや資料が内容を理解する上で役に立つ。					
③	先生の授業は、分かりやすい・理解しやすい。					
④	授業の速さ・速さはちょうどよい。					
⑤	授業を受けることで、この科目に関する興味や関心が深まった。					
⑥	先生の指示や問いかけははっきりしている。					
⑦	先生は生徒の発言や反応を大事にしている。					
⑧	授業の中で自分の考えや意見を述べる活動がある。（ペア活動等も含む）					
⑨	（教科独自）					
⑩	（教科独自）					

※質問①で2か1と答えた人は次のどちらかに○をつけてください。
現在の授業の早さは、早い（　　）遅い（　　）

その他、授業についての感想や要望、質問などがあれば自由に記入してください。

【今年度初めての公開授業がありました！】

今年度最初の公開授業として、北野教諭が「家庭基礎」で、「自分らしい人生をつくる」ことをテーマに、「家族と法律」を題材として授業を実施しました。単元目標を「人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題を理解する中、男女が協力し、家族の一員としての役割を果たすことに関心を持ち、行動できるような態度を身につける」とし、本時の目標を「旧民法かと現行民法の違いを理解し、家制度が現在も意識や習慣に残っていることに関心を持つ（関心・意欲・態度）」においた、ワークシートを効果的に使った授業でした。

授業の導入では、夫婦別姓をとる実例を示す名刺が、ICT機器を使って映し出されていました。全員が共有したい点を映し出すことで、問題について全体で考えたいようにうまく仕掛けられていたと思います。また、夫の姓を選んだ夫婦が、全体の96％もいるという数字の提示は、より生徒の興味関心を惹きつけたようです。本時の主発問自体は板書されませんでしたが、それが「なぜ（旧民法と違い法律ではどちらでも選べるのに）夫の姓を選ぶ人が多いか考えてみよう」であることは、全員が共有できたと思います。

「入籍」、「跡取り」、「○○家結婚式」など、普段何気なしに見聞きする言葉から、男女平等の本質や家制度の名残などに気づかせる点は効果的で、ペアでの話し合いや、ワークシートの会話文の穴埋めの記入など、多くの場面で生徒が授業に主体的に取り組んでいました。

参観された先生方の授業参観記録では、

・「家」制度の名残について、しっかり考えさせた上で気づきを発表させたことで、全員が共有できてよかった。

・「家」制度などについて、会話文の空欄に単語の穴埋めをしながら考えるワークシートであったが、単語でなくキーとなる会話文を考えさせるのも一つの方法かと思った。

・主発問（めあて）が明確になっていて良かった。

などの意見が見られました。大変提案性のある授業でした。

【第1回公開授業週間のお知らせ】

1　実施期間　6月5日（火）～6月18日（月）

2　ねらい＜次の①～③ための研修の機会とする＞

①授業改善と学び続ける教師の姿の実践

②主体的で対話的な深い学びに基づいた授業づくり

③発問を工夫した授業づくり

★7月20日（金）には、第1回運営指導委員会及び教員対象研修会が予定されています。この日は、教育課程実践モデル事業の担当者による研究授業が予定されています。

2つの問、つまり発問と作問を意識することで、授業改善をすすめていくことは、これまで全教員が意識して進めてきたところです。『管理職による授業観察実践事例集』（島根県教育センター、平成27年3月）に所収されている、「ある校長が学生時代に（作成されたものを授業観察の基盤としてあらためて）作成された学生時代の覚書」では、発問について、次のようなことを記されています。参考までに紹介します。

なお、発問には、主発問と補助発問があります。主発問は授業のめあてや目標に関係するものですが、次に紹介する補助発問は、補助発問に関連するものと考えられます。

～発問～

(1) 授業を進めるための発問だけでなく、考えさせる発問が考えられているか。また、その組み合わせ方は適切であるか。

(2) 発問の量

・全部で20を超えていないか。

・考えさせる問い（一問で5分ぐらい持つ問い）が、1時間に2つ～3つ用意されているか。

(3) 発問の精選

・発問の意図は明確であるか。

・発問によって、授業の展開が分かるか。（精選された言葉で、順序よく配列さているか。）

・一つの発問で聞けることに、二つ以上の発問をしていないか。（発問の量をできるだけ少なくするために。）

・発問を、同じ次元で言い換えしていないか。（繰り返すなら同じ言葉で。言い換えるときは観点を変えて。）

・発問の内容は、生徒の能力に適しているか。

(4) その他

・考えさせる問いの切り込み方は適切であるか。

・生徒の反応を確かめた上での発問であるか。

・発問によって、生徒の注意力を喚起し、揺さぶりをかけることができているか。

・発問の語尾など、問いかけの仕方に配慮がなされているか。

・誤答・ピントのずれた答えを、正答に導くための発問に工夫がなされているか。

・発問の解答範囲は、はっきりしているか。

【自己目標評価シートより】

平成30年度の自己目標評価シートの「学習指導」欄には、ほとんどの先生が、「主体的で対話的な深い学び」を取り入れた授業づくりに関わる目標を掲げておられました。いくつかの手立てを紹介すると、「授業のめあてに関わるルーブリックを黒板に掲示して生徒に意識させる」、「みんなで考察できるワークシートを作成する」、「既成概念とのズレを意識した発問の工夫をする」、「考えの過程を問う発問をして考え方を説明させるようにする」、「アニメーションスライドを作成する」、「毎時間振り返りと感想を書かせるようにする」、「授業での気づきを毎時間かかせたり発表させたりする」など、それぞれの先生が『思い』を持って授業改善に取り組んで行こうとされていることがわかりました。